

道徳の時間で活用する  
～節度、節制～

長門市立通小学校 芝田 美恵子

1 本場面におけるポイント

- 導入や展開で、ねらいとする価値に気付かせるための支援として、挿絵を活用する。
- 読み物資料として「私たちの道徳」の資料を用い、資料中の人物の心情を想像したり自分だったらどうするかを考えたりする。
- 自分の振り返りを共有することで、前向きな気持ちを高めることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 きもちのよいせいかつをしよう

2 中心的な資料 私たちの道徳 小学校1・2年用 P10～11 (数枚)

私たちの道徳 小学校1・2年用 P16～19 「るっぺ どうしたの」

3 ねらい わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする態度を養う。

4 展開

(1) 導入 気持ちのよい生活について振り返る

教師：気持ちよく生活するために、どんなことに気を付けていますか。

- A児：なかよく遊ぶこと。  
B児：うれしく、おいしく食べること。  
C児：気持ちよくねること。  
D児：あいさつをすること。

P10～11の使用した絵



□ 指導上の留意点等

規則正しい生活に意識を向けさせるために、「私たちの道徳」(1・2年 P10・11)の挿絵を数枚提示し、価値の方向付けをする。その際、挿絵は、一つ一つ移動できるようにしておき、子どもたちの発言に合わせて提示できるようにする。子どもたちから考えがでない場合は、挿絵を見せて考えさせるようにする。この挿絵は、授業の終末でも活用し、子どもたちの意識が連続するように工夫する。

(2) 展開 資料「るっぺ どうしたの」を読んで考える

教師：るっぺは、どこがいけないの。

- A児：砂をなげたところがいじわる。  
B児：友だちが待っているのに、急いでいないところ。  
C児：ランドセルのふたをちゃんとしめていないところ。  
D児：Aさんに付け加えて、人が嫌がることをしているところ。  
E児：お母さんが起こしているのに、起きないのがいけない。  
F児：Eさんに付け加えて、目覚まし時計がなっているのに、起きないところ。

教師：まわりの人はどうだった。

(「るっぺ」と「まわりの友達」になって、身体表現活動をする。)

- A児：まわりの人はいやな気持ちになっていたよ。  
B児：るっぺくんは楽しそうだけど、ほかの人は気持ちがよくないよ。  
C児：るっぺくんは、まわりの人の気持ちが分かってないよ。



資料 P16～19 の挿絵

□ 指導上の留意点等

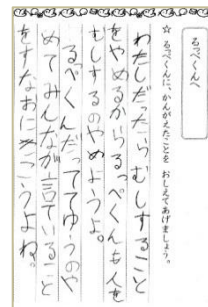
お話の粗筋を捉えやすくするために、挿絵を紙芝居にして読み聞かせした。その後、絵を黒板に掲示し、資料の中心人物について考えていった。子どもたちも、絵を見ながら発言することができていた。この話は、三つの場面で構成されているので、3段に分けて掲示した。同時に3場面を扱うことで、ねらいとする価値内容に気付かせることができる。また、身体表現活動を取り入れて考えさせることで、自分勝手な行動はまわりの人に迷惑をかけていることにも気付かせることができる。

(3) 終末 自分の生活に生かす

教師：気持ちのよい生活をするために、自分だったらこれからどんなことに気を付けますか？  
 A児：いじわるをなくして、みんなとなかよくする。  
 B児：夜遅くまで起きていないで、早く寝るよ。  
 C児：朝は、元気に起きるよ。  
 教師：るっぺくんに、どうしたらいいか教えてあげよう。  
 (ペアになって、となりの人に自分の考えを話す。)  
 A児：ぼくだったら、自分で起きるよ。だから、るっぺくんも目覚まし時計がなったら、自分で起きてね。  
 B児：わたしだったら、(友達の注意を)無視することをやめるよ。だから、るっぺくんも人を無視することをやめようね。  
 C児：いつもお母さんに起こされなくて起きているよ。るっぺくんも起こされなくて起きてね。

□ 指導上の留意事項等

主人公の行為は、自分勝手なわがままな行為であることを押さえ、「わがままをしないで、約束や決まりを守ること」が、みんなが気持ちよく生活するために大切であることを共有させた上で、自分だったらどうするかを考えさせるようにした。「自分だったら、〇〇〇するよ。だから、るっぺくんも〇〇〇しようね。」のフレーズで、振り返りを行った。その際、ペアを活用し、自分の考えを伝え合わせるようにした。その後、全体で発表し、主人公あてにお手紙を書いた。



ペアでの伝え合い

振り返りの手紙

3 実践を振り返って



○ 本時は「気持ちのよい生活」について考えた学習であったが、子どもたちは、「気持ちのよい生活」とはどんな過ごし方なのか、初めは意識していないようだった。導入で活用した絵や「私たちの道徳」の読み物資料「るっぺ どうしたの」は、子どもたちにとって、内容が大変分かりやすく自分の生活と照らし合わせて考えるのにも有効であったので、具体的にイメージすることができたようである。

○ 本資料は、三つの場面から構成されている。子どもたちにとっては「早寝早起き」「身支度」「遊びのきまり」に関するもので、3場面を一度に

扱うことにより、「自分勝手、わがまま」な姿に気付かせることができる。本学習の後にも、上靴のかかとを踏んでいる子を見付けると「るっぺくんになっているよ。」と注意したり、ランドセルをきちんと止めていない上級生を見かけると「るっぺくんがいたよ。」と報告してくれたりするなど、日常生活の中でもわがままな行為が意識できるようになってきた。

○ ペアを活用し、友達に語らせるようにすることで、価値の共有化を図ることは効果的であった。自分にできていること、できそうなことに気付かせ、前向きにがんばろうとする気持ちをもたせることができたと思う。

○ 導入に既習の絵（「私たちの道徳」P10・11）を提示したことは、ねらいとする価値に気付かせることに有効であった。挿絵などを資料として教材化したら、何度も活用することができるよさがある。

